

電子技術者の転職事情

――「転職」の文字が気になるあなたへ

米焼酎

ここでは，最近の電子技術者の転職事情，および転職を実行に移すプロセスについて説明する．また，転職を考えているエンジニアへのアドバイスなどを紹介する．企業情報や求人内容をインターネットで検索できるなど，エンジニアにとって転職しやすい環境が整ってきている．ただし，実際に転職を進めるにあたっては，「なりたい自分」をイメージしながら，手順を踏んで準備を進めていくことが肝要である．（編集部）

筆者は，人材紹介（いわゆるヘッド・ハンティング）のしごとに従事しています．本稿では「電子技術者の転職」をテーマに，最近の動向とエンジニアが転職するにあたっての注意点を述べていきます．

ここ4年間で，有効求人倍率は0.97倍，新卒採用の求人倍率は1.5倍まで回復し，4年前と比較して求人数は2倍に増えました．「風は感じるけれどほんとうかな？ 転職に成功した人もいるけど失敗した人もいる．きょうあすのことではないにしても，関心はおおいにある」．これが多くのエンジニアのみなさんの気持ちでしょう（**図1**，**表1**）．



図1 「転職」を考える
きょうあすのことではないにしても，転職に関心のあるエンジニアは少なくない．

現在は転職には良い時期ですが，漫然（まんぜん）と考えているだけでは何も進みませんし，チャンスも訪れません．転職は人生の一大事ですから，自分の将来の目標や夢を描いて自分の価値を高め，目標へ向かって着実に進んでいきましょう．本稿がエンジニアのみなさんへの有効なアドバイスとなれば幸いです．

転職の理由はそれぞれあることと思いますが，転職のためのプロセスは前向きな姿勢で進めてください．筆者が3年間相談を受けた中で，「このしごともできますか？」，「あのしごともやってみたい」と前向きな方は選択肢が増えますし，成功しています．反対に，「このしごとはやりたくない」と言われる方は，早急に結果を求められるケースが多く，こちらも閉口してしまいます．

転職は簡単なことではありません．冷静に考え，自身で判断しながら，手順を踏んで進めてください．

● 転職しやすい環境になった

景気の回復を反映して，「転職」の文字があちこちにはんらんしています．電車の中吊り広告を見ても，インターネットや新聞・雑誌を見ても，転職の文字が目に入ります．

表1 あなたの転職意識レベルは？

レベル	意識・行動
レベル7	転職活動中
レベル6	希望の会社が決まっている
レベル5	希望の専門分野・職種が決まっている
レベル4	転職を希望している
レベル3	スカウトされたい
レベル2	転職の長所・短所を理解している
レベル1	なりたい自分と今のしごとが一致している

毎週，あちらこちらで転職相談会（フェア）が開催されていますし，ヘッド・ハンタらしき人から職場へ電話がかかってくることも珍しくなくなりました（**図2**）．

昨年（2004年）末から企業が人材を求め始め，今はなおいっそうの人材獲得作戦を進めています．「2007年問題」と呼ばれる団塊世代（1947年〜1949年ころの第1次ベビー・ブーム時代に生まれた世代）の定年，企業業績の回復，不況期に採用を控えた年齢層（25歳前後）の補充など，理由はいろいろです．エンジニアのしごとの現場では，業績回復の追い風とともに，将来への投資として会社の中核となる人材，すなわち正社員の確保を急いでいます．

確かに現在は転職しやすい環境です．企業情報や求人内容はインターネットから得られますし，希望する業種や職種を選べば，該当する求人案件を検索できます．応募は休日に自宅からメールで行えますし，希望すれば就業時間後に面接を実施してもらえるので，日々のしごとに支障はありません．転職支援のインターネット・サイトで職務経歴を匿名で公開すれば，スカウト・メールが山ほど送られてきます．まさに電子レンジで「チン！」する感覚で転職できるように見えます．

企業は良い人材を獲得するために多額の経費をかけていますから，転職市場は活況を呈しています．しかし，転職者の数は着実に増えてきていますが，求人数の増加に追いついていないのが現状です．求人情報については，（ディジタルの世界で）インターネットを活用するなど，どんどん良いツールが整備されてきています．しかし，転職希望者はあくまでも（アナログ的思考に縛られた）人間ですから，良いツールの登場が即座に転職活動に結びつくとは限りません．潜在的な転職希望者を掘り起こすようなWebサイトやツールは，まだまだ整備途上です．



図2　「転職」の文字がはんらん
景気の回復を反映して，「転職」の文字があちこちにはんらんしている．

● **企業が求めるのは「人手」ではなく「人材」**

求人の動向を数字で見てみましょう．統計として，失業率（**図3**，総務省発表）と有効求人倍率（**図4**，厚生労働省発表）があります．2005年9月の求人倍率が0.97倍で，2001年末の大リストラ時代の0.56倍から4年間で倍近くまで回復しており，バブル経済末期の1.43倍に近づこうとしています．失業率を見ても，2001年の大リストラ時代は5.5％で最高でしたが，それから4年がたち，現在（2005年9月）は4.2％まで下降しました．

1991年のバブル経済末期の有効求人倍率は1.43倍で，失業率は2.0％でした．このときと今の違いについて考えて

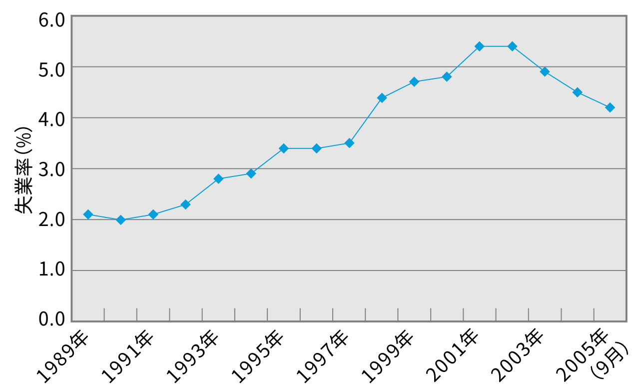


図3　失業率
失業率とは，働く意思がある人全体に対する職がない人の割合．総務省統計局のデータ（http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.htm）．

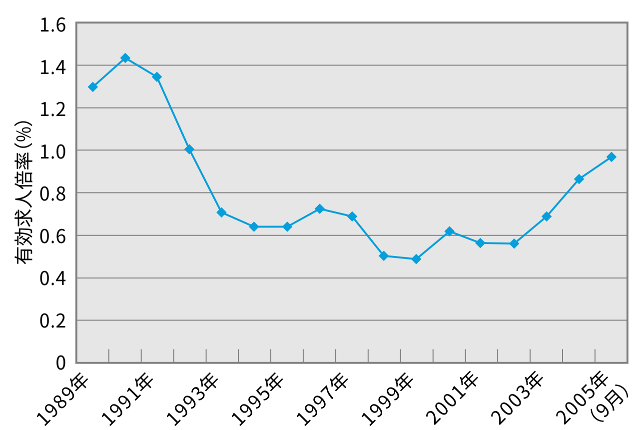


図4　有効求人倍率
有効求人倍率とは，求職者数に対する求人数の割合．厚生労働省のデータ（http://wwwdbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/indexkr_16_1.html）．

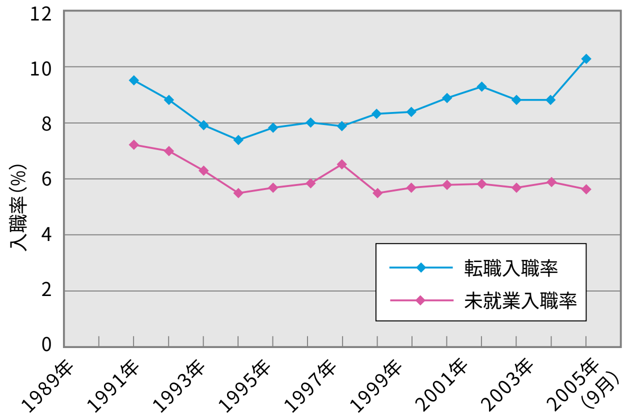


図5　転職者と未就業者の入職率

2005年9月の段階で，転職によって入職する人の比率が10%を超えた．厚生労働省のデータ（http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/doukou/04-2/3.html#zu4）．

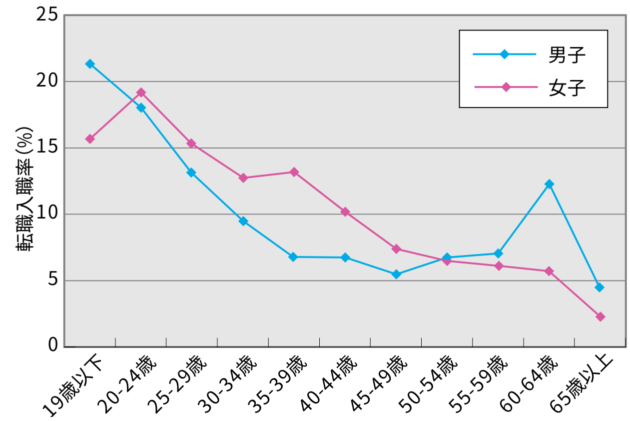


図6　年齢別転職入職率

年齢別で見ると20歳代前半の転職入職率がもっとも高く，男子では18.1%となっている．厚生労働省のデータ（http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/doukou/04-2/4a.html#hyo1-5）．

みましょう．

1991年は「人手が不足していて，とにかく人が欲しい」という時代で，このころ求められていたのは「人手」でした．実務をこなせる手が不足していたのです．一方，現在の企業は，「人手」ではなく「人材」を求めています．事業を開拓できる能力のある人，エンジニアであればその分野のスペシャリストとなる可能性のある人，行動力とリーダシップを持った人です．

今の失業率（4.2%）がバブル期の2.0%まで下がるかどうかは，企業の求める「人材」が増えるかどうかによります．単純に，「求人倍率が高いから転職成功率が高くなる」というわけではありません．あなたが企業の求める「人材」に近ければ，成功率はより高くなります．

2005年9月の段階で，転職で入職する人の割合は，**図5**のように10%を超えています．男女合わせて，年齢別で見ると，20歳代前半の転職入職率がもっとも高くなっています．例えば男子の転職入職率は18.1%となっています（**図6**）．常用労働者の5人強にひとりが1年以内の転職で入職しており，その率は30歳代の2倍，40歳代の3倍となっています．

たしかに第2新卒（新卒で企業に就職し，その後2～3年程度で転職する人）の転職希望者は大勢います．多くのエンジニアの方々にとって，大学の就職活動の時期は，「就職活動よりも卒業研究のほうが大事だった」，「就業経験がないので，求人票などを見ても実感がわかなかった」という状況だったかと思います．また，入社の決め手は「大学の先生に勧められて…」，入社してからは「人事部が配属を決めた」，「希望したしごとと違っていた」というケースが珍しくないと聞いています．

企業が第2新卒を求める動機は，ここ5年ほどの不況で採用を控えていた25～30歳の人材の早急な補充です．新卒採用は，現在の求人倍率が1.6倍で売り手市場となっており，早く手を打たないとますます新卒採用が難しくなるとの予測があります．近い将来，企業が人材を選べない日が来るのかもしれません．そのときにしっかりと転職を考えている人は，成功する確率が高くなる，と筆者は考えています．



図7　「なりたい自分」をイメージする

どのようなテーマを持ってしごとをしている自分になりたいかを考える．

●「なりたい自分」をイメージする

転職を考える前に，自分の将来，すなわち「なりたい自分」を考えてみてください（**図7**）．人それぞれ違った価値観やしごと観があって当然です．「このようなテーマを持って

ハードウェア
- 半導体プロセス技術
- LSIパッケージ開発
- プリント基板設計
- ASIC/FPGA設計
- マイコン設計
- IPコア設計
- RF技術
- アナログIC設計

システム
- プロジェクト・マネージャ
- アーキテクト
- システム設計

ソフトウェア
- アプリケーション・ソフトウェア開発
- ミドルウェア開発
- デバイス・ドライバ開発
- ファームウェア開発
- OS開発
- ソフトウェア・テスト

（a）専門分野の例

- 研究職
- 開発・設計職
- コンサルタント職
- FAE/AE職
- 技術サポート職
- マーケティング職
- プリセールス職
- アカウント・セールス職
- 品質管理
- フィールド・サービス
- インストラクタ
- 購買
- 広報

（b）職種の例

図8　専門分野と職種
ここで挙げたのは，あくまでも一例である．このようにきちんと分類できない分野や職種も少なくない．

しごとをしている自分になりたい」，「起業・独立して経営者になりたい」，「人を幸せにするしごとをしたい」，「趣味を生かしたしごとがしたい」などなど．難しいかもしれませんが，時間をかけて考えてください．将来像については，抽象的なイメージよりも具体的なイメージを持ったほうがよいと思います．しごとをしている現場の風景や同僚の顔，その現場で自分が考えていることなどを思い描いてください．

実務経験が3年以下の経験の浅い人は，キャリアの再構築が可能なので，今のしごとと将来像がつながらなくてもかまいません．しかし，経験4年以上の人は実績も重要ですから，現在の延長線上で考えてみてください．

● まずは専門分野を，そして職種を選ぶ

あなたの今の専門分野はどこですか？ **図8(a)**を見てください．電子技術といっても半導体プロセス技術からシステム設計まで，いろいろな分野があります．

今はどの分野で経験を積んでいますか？ キャリアと呼べる3年以上の経験がありますか？ 将来はどの分野に進みたいですか？ 将来のために，ほかに経験しておきたい分野はありますか？ それはあなたのキャリアアップにつながりますか？

もちろん今の分野を掘り下げてスペシャリストになるのが将来の自分かもしれませんし，別の分野で広い経験を積むという選択肢もあります．プロジェクト・マネージャや技術コンサルタントを目指すのであれば，複数の専門分野を経験しておいたほうがよいと思います．

専門分野を分類・定義することに難しさを感じるかもしれません．なりたい自分はアナログ思考なのに，分野の分類は（‘0’か‘1’かの）ディジタル的な項目です．なりたい自分をディジタル化することに，筆者も日々ストレスを感じています．

職種選びは少々やっかいです（**図8(b)**）．得意な専門分野で現在と将来の職種を結び付けて，自分の目標を成し遂げられる職種を考えてください．開発職や設計職は想像で

1

コラム① 人材紹介会社と転職コンサルタント

「人材紹介会社」は，厚生労働大臣の許可を受けて有料で職業紹介事業を行う会社のことです．1999年（平成11年）に職業安定法が改正され，公的機関（ハローワークなど）だけでなく民間も公的機関と同じ位置づけで，労働力需給調整という重要な役割を果たすことになりました．改正後，首都圏を中心に人材紹介会社が増え，今は地方都市にまで広がっています．

転職希望者が受けられるサービスには，経験や希望を踏まえたうえでの求人情報の提供，カウンセリング，書類の書きかたや面接の受けかたのアドバイスなど，さまざまなものがあります．人材紹介会社は紹介先の企業から紹介手数料を得て活動しているので，転職希望者は無料で各種サービスが受けられます．それぞれの専門分野に強い転職コンサルタントがいて，企業の求人情報を日々追いかけています．若い転職コンサルタントも増えており，「私もコンサルタントになりたいのですが，どのようなスキルを身に付ければよいのですか？」と質問されることもあります．

人材紹介会社の大きな利点は，企業の事情で公表できない求人情報を持っていること，高い視点や広い視野で転職活動を支援してもらえること，個人では知りえない求人情報を持っていることなどです．

企業の社風や考えかたを転職希望者にしっかり説明できることと，企業とのコミュニケーション能力の高さが転職コンサルタント選びの条件になります．あなたも，10年，20年と長いお付き合いができるマイ「転職コンサルタント」を見つけてみてはいかがでしょうか？

きるでしょう．しかし，コンサルタント職やマーケティング職，FAE（field application engineer）/AE（application engineer）職などはなじみがないので想像がつかないかもしれません．しかし，最先端技術の業界動向を学んでしごとをしたい，顧客と接する現場でしごとをしたいなど，将来の希望に近い職種を考えてください．

今経験されている職種は何ですか？ 学校を卒業してすぐの方や第2新卒の方は，できるだけ広く職種を考えてください．また，可能であれば，転職経験を持つ先輩や同僚，転職コンサルタントに相談してみましょう（p.75のコラム「人材紹介会社と転職コンサルタント」を参照）．

将来なりたい自分から今の自分を見て，すでに持っている経験とこれから身に付けなければならない経験を整理すると，あなたのキャリア・プランが見えてきます（言うはやすし，ですが…）．ソフトウェア技術者の方々については，独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）から，IT技術者の職種や専門分野を分類・定義した「ITスキル標準フレームワーク（http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/itskill/）」が発表されています．ぜひ，参考にしてください[注]．

● 書類の準備と会社選びは並行に進める

職務経歴書と履歴書の準備は，自分の過去の見直しから始まります．社会人経験が3年以下であれば，経験内容としごとに対する姿勢を書いてください．4年以上になると詳しい経験内容と習得したスキルも加えます．

10年以上になると，さらに経験の要約と経験の詳細の説明が必要ですから，「経験の棚おろし」から始めます．「経験の棚おろし」とは，これまでの経験を具体的にすべて書き出してみることです．忘れていた経験などが出てきますし，整理することで客観的に自分自身の経験を評価できます．希望職種を考えるうえでヒントになることも少なくありません．

職務経歴書に希望する専門分野や職種，なりたい自分を書いておけば，あなたの考えが相手に伝わり，印象が良くなります．履歴書は項目を記入するだけですから簡単にでき上がります．

書類の準備と並行して会社選びも進めます．転職説明会（フェア）に参加したり，企業のWebサイトや雑誌を見れば，求人がたくさんあります．インターネットの転職支援サイトで経歴を公開すれば，企業や人材紹介会社からスカウト・メールが洪水のように押し寄せてきます．求人スペックに記載されている職種，経験要件，勤務地などを十分検討しながら，希望に合った会社をいくつか選んでいきます．しかし，会社名も知らない会社の事業内容や求人スペックを調べるのはたいへんな作業です．ですから，友人が勤務されている会社やしごとでお付き合いのある会社あたりから調査を始めることをお勧めします．

タイミングもたいせつです．求人の状況は日々変わっていくので，気に入った会社で求人募集があれば，早めに申し込むのがよいでしょう．

ただし，やはり自分で調べられる範囲には限界があります．そう感じたときは，人材紹介会社の情報が頼りになります．最新の企業の求人情報や非公開の求人情報，ベンチャ企業の情報を入手できますし，さらに相談もできます．

● 面接から入社まで

書類を提出して書類審査をパスすれば，面接に進みます（**図9**）．1次面接では，担当部門の方と採用担当者に会うことが多いようです．このときに，社風や会社の考えかたを直接尋ねるとよいでしょう．その企業を希望した理由や転職理由，なりたい自分，やりたいテーマを話せるようにしておいてください．自分の強みのアピールもさり気なく．

筆記試験や作文を実施する会社もあります．最終的に役員面接をパスすれば，採用内定書（オファー・レター）が企業から送付されます．採用条件を確認し，納得できる内容

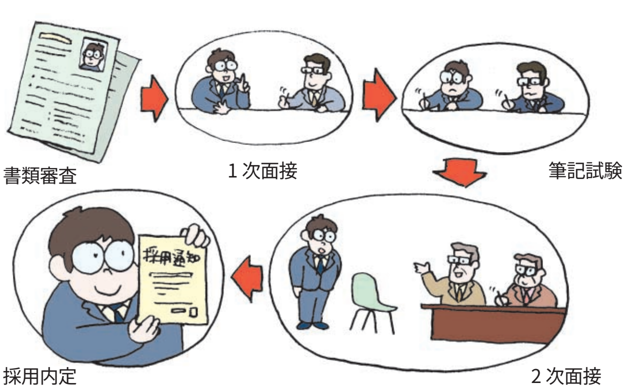


図9　転職のプロセス

職務経歴書・履歴書による審査，1次面接（担当部門，採用担当者），2次面接（役員）がある．会社によっては，筆記試験や作文を実施するところもある．面接をパスすれば，採用内定書が企業から送付される．

注：情報処理推進機構（IPA）は，組み込みシステム技術者の職種や専門分野を分類・定義した「組込みスキル標準フレームワーク」も作成している．詳しくは，本誌2005年7月号，pp.103-112の解説記事「『組込みスキル標準』を活用しよう」を参照．

であれば入社の意思を伝えます．採用条件はかならず書面でもらって，記述内容に疑問が残らないように十分に確認してください．

ここから，現在勤務している会社の退社手続きが始まります．想像以上に精神的に辛い作業ですが，なりたい自分に向かっていくのですから，かんばって乗り越えてください．業務の引き継ぎが始まったら退社日が確定するでしょうから，転職先の会社に速やかに入社日を伝えてください．

晴れやかに入社日を迎えられたら，なりたい自分に1歩近づいた実感がわくでしょう．

● ゴールは転職そのものではなく「天職」探し

転職を考える中では，転職そのものをゴールとするのではなく，自分の「天職」を見つけるつもりで検討を進めてください．その結果，転職するよりも，今の会社や今のしごとのほうがよい場合もあるでしょうし，部門異動で事足りる場合もあるでしょう．キャリアアップのためには，とにかく社内・社外を問わず，広い視野で考えてください．

何の準備もせず，いきなり企業の求人を見る人がいます（筆者も最初はそうだった！）．社名や給与，勤務時間など，条件面で魅力的な項目に気を取られて，この会社に転職することが自分のゴールであると思い込んでしまいがちです．

また，知人や先輩からの突然のスカウトがきっかけで転職される方が意外に多いようです．「信頼できる人と夢を共有できるから」という理由ですが，これもなりたい自分を描いていない一例です．失敗しないためには，採用理由をよく確かめ，納得したうえで転職することをお勧めします．その時点での経営状況がよくても，しばらくすると知人の立場が変わるかもしれません．「あのときは好調だったけれど，今はこんな状態で…」，というケースもありえます（例えば，業績の建て直しのタイミングで採用され，業績が上がらなかった場合）．キャリアアップになっていれば再度の転職も可能ですが，職種や業種が違っていれば，それ以降の転職で不利になります．会社と個人の雇用契約ですから，焦らずクールに考えて判断してください．

筆者が過去に聞いた例として，「メーカ勤務だが，仕様書を書くだけで設計のスキルが磨けない」，「設計のしごとをしたくて開発・設計会社に入ったのに，派遣会社の業態と似ている」，「面接時の説明と実際のしごとが違っていた」，「予想以上に残業が増えた．でも，年収契約なので収入は一定」というケースがあります．このあたりが転職の失敗例です．求人倍率が上がってくると，企業はやや強引にでも人材を確保しようとします．その結果，"おいしい"お誘いの話が出てくると思いますが，慎重に考えてください．

こめしょうちゅう
転職コンサルタント

<筆者プロフィール>
米焼酎（ペンネーム）．30年前，F-8，8080，Z-80マイコンと出会い，臨床検査装置の開発職（10年）から半導体業界へ転職．米・英の外資系半導体企業（20年）を経験した後，一昨年から転職コンサルタントの修行中で，来春には都内で本格的に活動を開始する予定．みなさんとのお話が好きで，焼酎を飲み始めるとお尻に根が張っていつまでも飲む癖がある．kome-shochu@jcom.home.ne.jp

コラム② 転職コンサルタントからひと言

● 転職を考えているあなたへ
1）ポジティブ思考で
2）自分の強みを
3）なりたい自分
4）得意な専門分野を持つ
5）職種選びは幅を広げて

● 転職活動中のあなたへ
1）転職をゴールと考えないで
2）会社選びは慎重に
3）「経験の棚おろし」で，職務経歴書をまとめる
4）面接ではさりげなく自分の強みをアピール
5）採用条件は書面でもらう

● 希望の会社を見つけるには
1）人脈（友人，知人，先輩，しごと仲間…）
2）インターネット
・企業のWebサイト
・求人情報の集合サイト
・転職支援サイト（登録型が多い）
3）新聞・雑誌
4）転職相談会（フェア）
5）転職コンサルタント